

【四月の言葉（平成二十八年）】

「あれは嫌い、これは駄目、あいつは困る、こいつは・・・」と切り続ける。

私はどうもハサミのようだ。

私たちの目はいつも自我のメガネをかけ、見たいようにしか見ていません。本当にハサミのように自分勝手に切り捨てています。

「みんなちがってみんない」という言葉がありますが、これは仏さまの眼差しです。私たちはそんな眼差しを持っていません。自分の都合で、勝手な思いでハサミのように切り捨てています。普段はその自分に何の耻ずかしさも罪悪感も感じていません。

しかし仏法を聞き、わが身に届いてくると、自己中心的な自我のメガネをかけている自分が知らされ、わが身の愚かさ、耻ずかしさ、悲しさに気づかされるのです。